

令和6年度 江戸川区立鹿本中学校 学校関係者評価報告書（学校経営計画・学校関係者評価シート）

学校教育目標	・自律（自らを律し、主体的に活躍できる生徒） ・敬愛（お互いを敬い、協働できる生徒） ・探求（自ら学びに取り組める生徒）		目指す学校像 目指す生徒像 目指す教師像	・基礎基本の定着を図る学校。社会に通用する規律を重んじる学校。 ・正しいあいさつが、あたりまえに交わされる生徒。他を尊重しながら行動できる生徒。 ・生徒の個性を伸長できる教師。自らの行動に責任をもてる教師。	
前年度までの本校の現状	成果	・ICT機器の校内研修を実施し、どの教科の授業でも活用することができた。 ・鹿本学園との交流を行うことができた。 ・朝の欠席連絡など「tetoru」の活用を広げることができた。 ・年間2回のhynpaer-QUを実施して学級や学年経営に役立てることができた。	課題	・学力向上に向けた取組を充実させ、家庭学習の習慣化を図る。 ・不登校生徒の校内別室指導の体制づくり等、不登校対応の充実を図る。 ・読書科の探求的な学習の充実を図る。 ・体育着登校の実態を改善し、制服登校を増やしていく。	

重点	取組項目	具体的な取組内容	数値目標	達成度		「中間」自己（学校）評価（A～D）		「中間」学校関係者評価（A～D）		「年度末」自己（学校）評価（A～D）		「年度末」学校関係者評価（A～D）		次年度に向けた改善案
				9月	2月	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	
学力の向上	○学習の基盤となる基礎・基本の確実な習得、家庭学習習慣に対する学校の組織的な対応による取組の実施・充実	・学校と民間事業者による放課後補習教室の実施	・放課後補習教室への参加率80%以上	B	A	A	・参加方法を多様化し、昨年度よりも登録率を向上させ、参加率も良い。	A	・学力の向上は重要である。今後とも推進していったほしい。	A	・担任からの声かけや年度途中に追加募集を行うなどして、参加率は目標を達成できた。	A	・今後も継続していったほしい。	・学力の低い生徒の参加を増やし、底上げを図る。
		・ミライシードの「ドリルパーク」の活用	・ドリルパーク活用者が80%以上	D	B	C	・活用者は34%なので、今後のスタディウィークで周知し、活用者を増やしていきたい。	B	・ドリルパーク以外の学びも大切である。家庭学習の充実を図っていったほしい。	B	・スタディウィークでの周知により、活用者が大幅に増えたが目標達成までもう少しだった。	A	・今後も継続していったほしい。	・家庭学習充実のため、更なる取組を進める。
	○読書科の更なる充実	・1年時より探究的な学習を計画的に取り組み、3年次で成果物として発表	・3年次の成果物完成80%以上	C	A	B	・各学年、年間計画に沿って取組を進めている。3年次の成果物は3学期に作成予定である。	B	・計画に従って、実施していったほしい。	A	・例年実施していた卒業研究を2学期の弁論大会に向けた取組に変更して実施した。	A	・工夫しながら、進めていったほしい。	・卒業研究の方法について、年間計画を見直していく。
体力の向上	○個に応じた体力向上のための取り組みの実施・充実	・体育授業における補助運動を毎時間実施	・補助運動の実施を100%	B	A	A	・実施できている。	A	・今後も継続してほしい。	A	・特に問題なく実施できた。	A	・今後も継続していったほしい。	・次年度も継続し、体力向上に努める。
		・雨天時の昼休みは学年ごとローテーションで体育館を開放	・特別な事由がない限り100%実施	B	A	A	・雨天時だけでなく、熱中症警戒アラート発表時にも体育館を開放した。	A	・今後も継続してほしい。	A	・臨機応変に対応しながら実施できた。	A	・今後も継続していったほしい。	・次年度も継続していく。
教育の推進 共生社会の実現に向けた	○ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の実施・充実	・特別支援学級、難聴学級、特別支援教室、不登校巡回、SC、心理士、SSWとの連携	・毎月1回以上、特別支援委員会を実施	B	A	A	・特別支援委員会を毎月2回開催し、個々の生徒への対応について情報交換や協議を行っている。	A	・きめ細かい生徒対応を期待している。	A	・毎月2回に加え、不登校のケース会議を行うなど、充実を図ることができた。	A	・今後も継続していったほしい。	・継続していくとともに、充実を図る。
	○エンカレッジルームの活用促進	・巡回指導以外にも合理的配慮の目的等で使用	・各学期1回以上、巡回指導以外の目的で使用	B	A	A	・定期考査の合理的配慮について特別支援委員会で検討し、適切に実施している。	A	・今後も継続してほしい。	A	・計画的に活用していくことができた。	A	・今後も継続していったほしい。	・有効的な活用にも努めていく。
	○交流、副籍交流及び共同学習の実施充実	・鹿本学園等との年間指導計画に基づいた交流及び共同学習の実施	・年間3回以上の実施	B	A	A	・鹿本学園と9月に3年生がレクレーションボッチャで交流授業を実施した。	A	・充実した交流を図っていったほしい。	A	・1月に百人一首大会を行うなど、計画的に進めることができた。	A	・今後も継続していったほしい。	・次年度も継続していく。
不登校の充実に いじめ対応	○不登校別室指導の実施・充実	・不登校別室指導の体制づくりと充実	・2学期からの運営開始 ・利用生徒3名以上	B	A	A	・2学期から運営が開始でき、現在2名の生徒が別室で学習している。	A	・積極的に活用できるようにしていったほしい。	A	・オンライン授業の取組を進めながら、3名の生徒が別室で学習することができた。	A	・不登校が増えないよう、対策を進めてほしい。	・別室の環境整備と、オンライン授業を推進する。
	○hyper-QUの活用	・hyper-QUテストの生徒の実態把握に基づいた指導の推進	・年に1回校内でhyper-QU研修会を実施	A	A	A	・8月にhyper-QU研修会を実施し、生徒の実態把握とともに共通理解を図った。	A	・今後も継続してほしい。	A	・2学期に2回目のhyper-QUテストを行い、学級指導、学年指導に生かすことができた。	A	・今後も継続していったほしい。	・次年度も継続していく。
	○教育相談の強化	・各学期でいじめに関するアンケートを実施するとともに、二者面談等を実施	・生徒80%以上がアンケートに「教師に相談をよくしている」と回答	B	A	B	・1学期にいじめアンケートを実施、各担任で二者面談等を行っている。学校評価アンケートは12月に実施予定。	B	・生徒との対話を大切に、いじめ防止に努めていったほしい。	A	・生徒の82%が「教師に相談をよくしている」と回答しており、数値目標は達成できた。	A	・いじめのない学校づくりを期待している。	・さらに相談しやすい環境づくりに努める。
学校の実現 地域社会に開かれた	○学校ホームページの充実等	・学校ホームページの更新	・週1回以上更新を行う	B	A	A	・学校での出来事をこまめに更新し、充実に努めている。	A	・今後も継続してほしい。	A	・日頃の授業の様子や行事などについて、写真入りで紹介するなど、たくさん更新できた。	A	・今後も学校の様子を伝えられるようにしていったほしい。	・更なる充実を図る。
	○学校関係者評価の充実	・学校評議員会の実施 ・生徒、保護者、教員へのアンケート調査の実施	・各学期に1回実施 ・年間1回以上実施	B	A	A	・計画的に実施できている。学校評価アンケートは12月に実施予定。	A	・今後も継続してほしい。	A	・学校評価アンケートの実施は1月になってしまったが、ほぼ計画通りに実施できた。	A	・学校評価アンケートは概ね良い結果が出ている。	・頂いた意見を参考に改善を図っていく。
	○校則などに見直しについての検討	・生徒会役員との意見交換の実施	・各学期に1回以上実施	B	A	A	・生徒会役員との意見交換で、より良い学校づくりにつなげることができている。	A	・今後も継続してほしい。	A	・不定期ではあったが、生徒会役員との意見交換を年間通して実施することができた。	A	・今後も継続していったほしい。	・次年度も継続していく。
教育の展開 特色ある	○インクルーシブ教育の推進	・三つの学級（通常学級・特別支援学級・難聴学級）が一緒に行う行事の実施	・各学期に1回実施	B	A	A	・1学期は運動会を実施。5組は1年生と一緒に学年種目等に取り組んだ。	A	・今後も継続してほしい。	A	・2学期には学習発表会を実施。3学期は3月に合唱コンクールを実施予定。	A	・今後も継続していったほしい。	・ご意見をたくさん頂き、学校運営に生かしていく。
	○授業改善の推進、教員研修の実施	・教員の組織的な育成、研究授業の実施	・研究授業を全学級で年1回以上、全教員の半分以上が実施	B	A	A	・1学期は3年生の各学級、2学期は2年生の各学級で研究授業を実施した。	B	・教員の研修充実に期待する。電話対応の研修などもお願いしたい。	A	・12月に1年生の各学級で研究授業を実施し、計画通りに実施できた。	A	・できる生徒が退屈にならないよう、興味関心を高められる授業を今後も続けてほしい。	・更なる研修の充実に努める。
	○働き方改革の推進	・月1回の定時退勤日の設定	・全教職員の月残業時間80時間未満	B	A	A	・残業時間が増加しないよう、今後も呼びかけを行っていく。	A	・教職員が健康を害さないようにしていったほしい。	A	・月残業時間80時間を超える教員は年間を通していなかった。	A	・40時間でも多いと感じるので、仕事を取捨選択してやっていったほしい。	・残業時間を減らしていくよう働き方改革を進める。